

合同

No. 493

40周年記念大会 メッセージ 「派遣」

日本キリスト合同教会代表

田名邊 義之



「互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです」（ガラテヤの信徒への手紙6章2節）。

日本キリスト合同教会は40周年を迎えました。40年と聞いたときに、わたしの頭の中には、モーセに率いられたイスラエルの民が40年間荒れ野を旅して、一人ひとりの信仰と、各部族、共同体の信仰が練られ、整えられた姿が思い浮かびました。荒れ野から約束の地へ入るときには、モーセからヨシュアへリーダーが変わりました。ヨシュアという名前は、ギリシャ語のイエスと同じで「主は救い」という意味です。モーセから役割を引き継いだヨシュアは、神によって選ばれました。ヨシュアは、神への絶対的な信仰を持ち、常に神の指示に従って行動し、民を信仰によって、神の御心通りに導きました。神の民一人ひとりの信仰がイスラエルの各部族の信仰の姿となります。

わたしたちの信じるまことの神は、父と子と聖霊なる三位一体のまことの神で、互いに愛の交わりで繋がっている愛なるお方です。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」と言われ、「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」と聖書は語っています（創世記1章26、27節）。また、人を創造された後、神は「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」と言われ、神と人と交わる存在、自分とは違う存在である隣人を造り、連れてきてくださいました。わたしたちの毎日の生活の中で関わりのある人々が、神が自分に与えてくださった、互いに助け合うべき存在です。大切な家族、友人、会

社、学校の先輩、同僚、後輩、地域の方々、ママ友、パパ友、推しもいるかもしれませんね。ガラテヤの信徒への手紙6章2節でいう「重荷」というのは、単に物理的な負担のことだけではなく、精神的な苦しみ、悲しみ、罪の重荷、人間関係の悩みなど、人が抱えるあらゆる困難のことです。「担う」は、単に同情するだけではなく、積極的に相手の苦しみに寄り添い、共にそれを分かち合うことを意味しています。「隣人を自分のように愛する」姿を具体的に言いあらわしています。

ヨハネによる福音書には、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆知るようになる」とあります（ヨハネによる福音書13章34、35節）。主イエスがキリストであると信じているわたしたち、そのリーダーは「主は救い」という名を持ち、インマヌエルなるお方、わたしたちといつも共にいて、わたしたちの姿を見て、わたしたちの言葉を聞いてくださる方です。わたしたちは信仰の交わり、祈りの交わりの場であり、キリストの体である教会から、信仰を持ってそれぞれの場、隣人がわたしを必要としている場へ神によって派遣されています。

パウロは、聖霊の御霊の実が働くことで、わたしたちにあらわれる姿を9つの言葉にまとめて教えています。まず、助け主と聖霊の助けによって、わたしたちの心の中に①愛、②喜び、③平和が与えられます。それらを与えられたわたしたちは人に対して④寛容、⑤親切、⑥善意をあらわすことができます。すると、わたしたちの姿が⑦誠実、⑧柔和、⑨節制として人々の目にあらわされます。けれども、9つの実が全部あらわれなければクリスチャンではないのかということ、そうではありません。神はわたしたちを一人ずつ違うように造られ、用いてくださるお方です。

愛なる神はわたしたちをそれぞれの場に派遣されます。助け主、聖霊に助けられながら、お互いの違いを受け止め、重荷を担い、神を愛し、隣人を愛する存在になって仕えられるように祈りましょう。